

「制作実習」－復習問題(11).doc

氏名:

クラス:

★SubDominant Minor それは最も原始的なスケールの3度堆積。。

これまでさんざん言ってきたよーに、

コードとはマザースケールの3度堆積である。⇒(コードバイサード)

ってことで、最も基本的な三つのコードを積み上げてみる

三和音、三度堆積、三つの機能、、、これらはキリスト教で完全を表す三位一体(父・子・聖霊)が出自だと思われる。

	三和音、三度堆積、三つの機能	≪ペアレントスケール⇒第1モード≫	
①	I + IV + V = Major	Ionian	
②	I + IVm + V = Harmonic Major		
③	I + IV + Vm = Mixolydian	(Major Scale の第5モード)	
④	I + IVm + Vm = Mixolydian b 6th	(Melodic Minor Scale の第5モード)	
⑤	Im + IV + V = Melodic Minor		
⑥	Im + IVm + V = Harmonic Minor		
⑦	Im + IV + Vm = Dorian	(Major Scale の第2モード)	
⑧	Im + IVm + Vm = Natural Minor = Aeolian		

≪縦にすればコードで、横にすればモード≫になる

ここで注目すべきは、②Harmonic Major っつー新登場のスケール。これを軽〜く説明してみると、、、

まず、ドレミファソラドを生んだ Diatonic Scale (チャーチスケール) の出自として以下、3つ(+1)の有力説がある

●小泉文夫説

テトラコルドの第2・3弦チューニングバリエーションのひとつとしてチャーチスケールもでてきた

●ジョージラッセル説

P5th を7回累積した結果でてくるリディアンが原形

●濱瀬元彦説

I の上方倍音と下方倍音のトライアド = I メジャー、IVマイナー

V の上方倍音と下方倍音のトライアド = V メジャー、I マイナー

を合体させた結果でてくる Harmonic Major Scale と Harmonic Minor Scale が原形

●ことぶき説

西洋音楽のそもそものがオクターブの次に純正5度を求めたから。そこから後は共通倍音の発生率基準。

濱瀬元彦氏が書いた理論書において Harmonic Major Scale は、最も原始的なメジャー系スケールとして、その冒頭に登場する。このメジャーkey におけるIVm コード = サブドミナントマイナー、これが②Harmonic Major の本質だ。

で、上記の表を見ながら Scale の変移を機能を中心に解釈すると

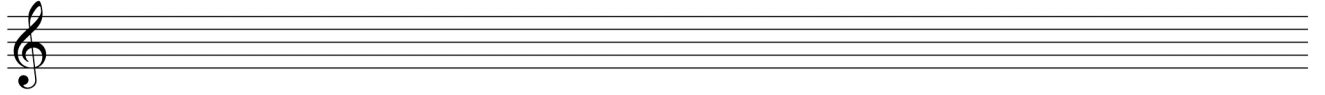
★機能 Function が同じで Root が別 ⇒ 代理和音 substitute chord

★機能 Function が同じで Scale が別 ⇒ 借用和音 modal interchange

上記星2つは、本質的に同じ意味を示してること気いつかんとならん。

で、
modal interchange の拡大解釈が、以下、Chord Scale に繋がっていく。

[問1] C Δ - F \sharp dim - G Δ 3つのトライアド・コード全てを網羅する一つのスケールがある。Cを基点とする第1モードのスケール名とスケール・ノート(7つの音符)を書きなさい。



★Chord Scale その前に～(ペアレントスケールの核音を変えちゃうって発想)

とつぜんだが、



「こんなコード進行にフレーズのつけてくれ」とか言われたら、どうする？

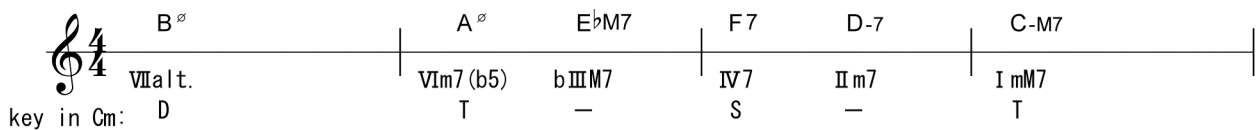
まずはコードに含まれてる音をズバリ想像してみる。

ポイントは

《コードじゃなくてキーを考えろ！》

ってことね。

そーすると、上の Chord Progression は、ある Key の Melodic Minor Scale に全部ハマる
ことが判明する。



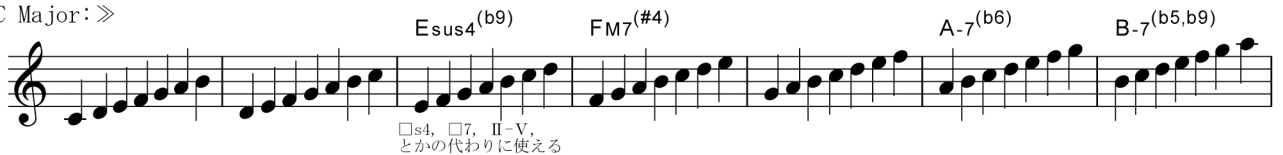
こんなかんぢ。ぜんぶ C の Diatonic Melodic Minor Chord だよな？

そーすると、細かいこと考えなくても、まるごと全部 C Melodic Minor の音でアレンジしとけばOKとなる。

よーするに、

マザースケールを正確にイメージできればいろんな Chord Symbol からザックリと Parent Scale を導けるってこと。

《C Major:》



《C Melodic Minor:》



※実際 Dm7(b5) - G7 - Cm6 みたいな典型的なマイナー II-V-I を、1つのスケールで演奏とかできたらメッチャ便利なんだろうけど、現実問題そんなスケールは存在しない。

そこでは、こんなふーに別々の Key の Melodic Minor Scale を3回流用(転調)するのが自然な選択肢。と、なる。

ま、スケール一つと、やたらと暗記せにゃならんとか、日々10時間の苦行が必要とかって思ってるかもしれないが、じっさいポップミュージックで使うペアレントスケールのホトンドは

“Major Scale” と “Melodic Minor Scale”

の2つだけだったりする。

そして

“Major Scale” と “Melodic Minor Scale” の違いは、唯一 3rd が“♯”か“♭”かの違いだけってことだ。

※用語解説: マザースケール&ペアレントスケール

マザースケールを3度堆積したのが⇒“Chord Symbol”ってこと。

マザースケールを生んだ第1モードが⇒“ペアレントスケール”ってこと。にしとく

※コード・ネーム・システムは「機能」を抽象化・記号化することに成功した一方、「響き」を分離・放置する結果となった。よって、実際の制作においては「響き」を再構築する必要がある。それが Voicing ってことだ。そこでは『「主観結合音」by ヘルムホルツ』が無意識下の感受ベースに含まれてるはず。

※ちなみに、function を維持しつつ様々な voicing が可能であることを立証する理論の代表として『「転回和音の原理」by ラモー』や『「差音の原理」by ヒンデミット』がある。それらは最低音が基音(root)であるとは限らないといった方向で論じられてる古典なんっで、死ぬ前に読んで。

[問2] 下記の括弧内を音楽用語で埋めなさい

() じゃなくて() を考えるのがコードスケールを導くコツだ!

★ Chord Scale① (Available Note Scale その前夜)

Major と Natural Minor の Diatonic Scale から4タイプ7種の Diatonic Chord ができた。

	Major	Natural Minor
□M7	I、IV	^b III、 ^b VI
□m7	II、III、VI	I、IV、V
□7	V	^b VII
□m7(b5)	VII	II

で、
各コードに対してアレンジしちやったりする場合、
対応する相手が全部上記の Chord だけだったら

Major Key には Major Scale = Ionian
Minor Key には Natural Minor Scale = Aeolian

の構成音を、使っていれば
他の Scale のことなんて何にも考えなくてもいいかもしれん。

Diatonic Scale × 7 種
(Major Scale)

I M7 Ionian 第1モード II m7 Dorian 第2モード III m7 Phrygian 第3モード IV M7 Lydian 第4モード V 7 Mixolydian 第5モード VI m7 Aeolian 第6モード VII m7 (b5) Locrian 第7モード

Diatonic Scale × 7 種
(Natural Minor Scale)

I m7 Aeolian 第1モード II m7 (b5) Locrian 第2モード ^bIII M7 Ionian 第3モード IV m7 Dorian 第4モード V m7 Phrygian 第5モード ^bVI M7 Lydian 第6モード ^bVII 7 Mixolydian 第7モード

で、
他の Minor Key の場合には、
Harmonic Minor で統一された曲には Harmonic Minor Scale
Melodic Minor で統一された曲には Melodic Minor Scale

の音を、使っていれば
他の Scale のことなんて何にも考えなくてもよさ毛な気はする。。

	Major Diatonic Scale	Natural Minor Diatonic Scale	Harmonic Minor Diatonic Scale	Melodic Minor Diatonic Scale
□M7	I、IV	^b III、 ^b VI	^b VI	
□m7	II、III、VI	I、IV、V	IV	II
□7	V	^b VII	V	IV、V
□m7(b5)	VII	II	II	VI、VII
□mM7			I	I
□augM7			^b III	^b III
□dim7			VII	

なんだけど
そんな曲は珍しい。
 ぢゃ、 Diatonic Natural Minor Chord と Diatonic Melodic Minor Chord が混ざってたらどーする？
 とか 他の Non Diatonic Chord が出てきたらどーする？
とか、ちよいと背伸びをして、Avoid note を避け Altered Tension を鳴らしたいとか、ちよいと雰囲気変えちゃって一時的な転調感みたいな音を弾いてみたいとする。
 ・e.g. I M7 に彩りたい ⇒ #IV音が美味しいってな直感 ⇒ そんなこんなに素早く対応せにやならん
そこで
Scale Name と、その Scale Tone を覚える意欲が沸き出る。

★Chord Scale② (Diatonic Scale を使う！)

てかんで、

Diatonic Chord 内で Tension をたっぷり含む Scale を採用したくなったり、Sub V とか Sec.D, Ex.D, Re. II m7, PC, とかの Non Diatonic Chord が出来てきた時、選択肢は3つある。

- ①それでも曲全体に漂う tonality Key 内の Diatonic Scale だけでセメまくる
- ②Non Diatonic Chord 出自の Key に移調した Diatonic Scale を弾く⇒modal interchange
- ③Non Diatonic Chord で使用可能っぽい応用 Scale を弾く⇒Composite Scale

こうやって

Chord Symbol から“マザースケール＝使える音のスケール＝Available Note Scale”を探っていくのだ。

で、

具体的にどーやってその、新たな Scale を割り当てるのか？

これが、また、恐ろしいことに、同じコードタイプの場合では、同じ Diatonic Scale を流用できちゃう(可能性がデカイ)ってことね。

	Major	Natural Minor	Harmonic Minor	Melodic Minor	Diatonic
□M7	I、IV	^b III、 ^b VI	^b VI		Ionian Lydian
□m7	II、III、VI	I、IV、V	IV	II	Dorian Phrygian Aeolian
□7	V	^b VII	V	IV、V	Mixolydian
□m7(b5)	VII	II	II	VI、VII	Locrian
□mM7			I	I	
□augM7			^b III	^b III	
□dim7			VII		

その理由は

「制作実習」－復習問題(10).doc

でやった Tension と Avoid に帰結する。⇒コードタイプによって Tension が決定するってこと

《 コードタイプが同じ ⇒ テンションも同じ ⇒ スケールも同じ 》

実践

このとーり弾けてことぢやなくて、これらの音使ってなんかヤレってことね。

key in C: I M7, VI m7, III m7, II m7, V 7, I M7

□m7にはすべてDorian Scaleを使った
□m7⇒Dorian、Phrygian、Aeolian

□M7なのでLydianをさせる
□M7⇒Ionian、Lydian

こーして出自以外の Root からスタートする Diatonic Scale を使うことにより、そのフレーズが一時的な転調感みたいのをかもしちゃったり、共有する Tension をメッチャ高い確率で Get できたり＝avoid を回避できたり、、、

よーするに、

Key が不明の場合でも Chord Symbol ⇨ Chord Tone がわかれば、なんでもアドリブできちゃう(かも)ってのに繋がる。

なぜ、上記 Am7, Em7, Dm7 の3ヶ所で Dorian Scale を使ったのか？

↓

そこで気になるのが、

「制作実習」－復習問題(10).doc

★ Tension と Avoid その式(それぢや Avoid とは？なんなのか？)

でやった

Chord Scale における Avoid の存在、ね。

Avoid の条件

第一条件『トライアド Chord Tone の上にのる半音』を回避

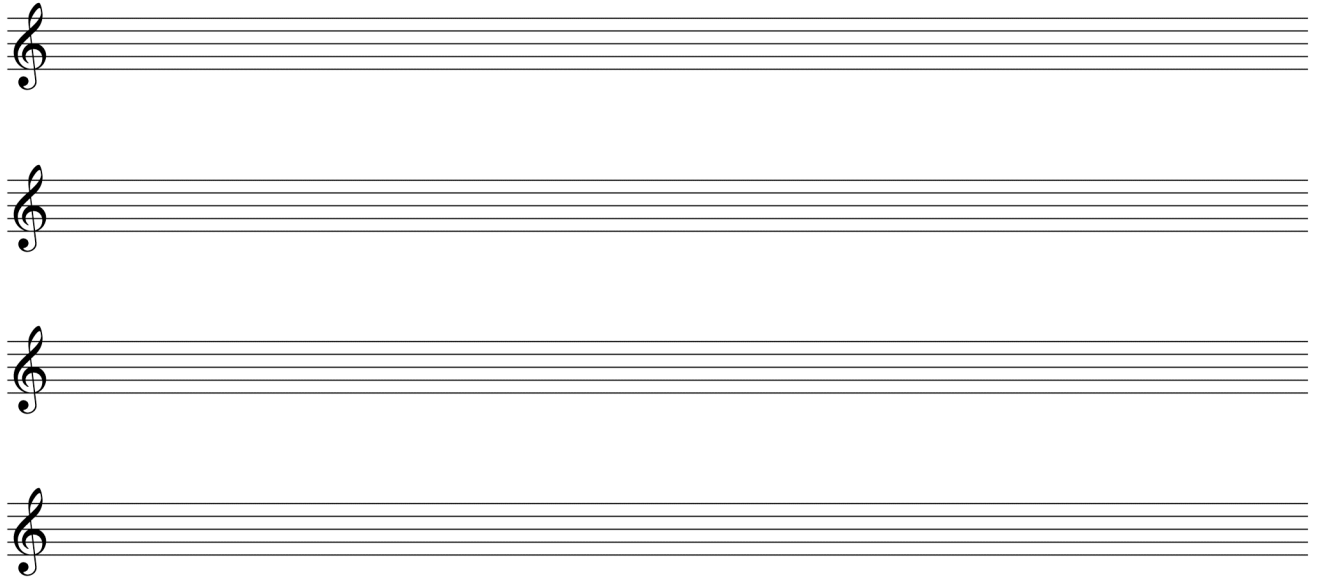
第二条件『Dominant 以外の 3rd に対するトライトーン』を回避

と、なると

必然的にトライアド Chord Tone の全音上をたっぶり含む Scale を選択したほうが安全かつ色彩豊かになる。ってこと

[問3]下記8小節程度の Chord Progression を創り、Key・Chord・Degree・Function 及び Scale Name と Scale note を書きなさい。

但し、使用する Chord Scale は Diatonic Scale のみとする。



[問4]完成した上記 Scale note の内、Avoid note に印をつけ Tension を度数表記しなさい。

★Chord Scale③ (Available Minor Scale を使う !)

Diatonic Scale と同じように、Minor Key の中でも主要な Scale にはそれぞれ名前がついている。

Harmonic MinorをペアレントスケールとするAvailable Note Scale

I mM7 Harmonic Minor 第1モード	II m7 (b5)	bIII augM7	IV m7	V 7 HMP5 Harmonic Minor Perfect 5th Below 第5モード	bVI m7	VII dim7
----------------------------------	------------	------------	-------	--	--------	----------

Melodic MinorをペアレントスケールとするAvailable Note Scale

I mM7 Melodic Minor = minor major mode 第1モード	II m7	bIII augM7 Lyd#5 Lydian#5th = Lydian Augment 第3モード	IV 7 Lyd b 7 Lydian b 7th = Lydian Dominant 第4モード	V 7 Mix b 6 Mixolydian b 6th = Aeolian Major 第5モード	VI m7 (b5) Loc#2 Locrian#2nd = Altered Dorian 第6モード	VII m7 (b5) Alt Alterd = diminish whole tone 第7モード
---	-------	--	---	--	---	--

これで

dim7 以外、Major Key と Minor Key に登場する全てのコードタイプに対応する Scale Name が判明した。

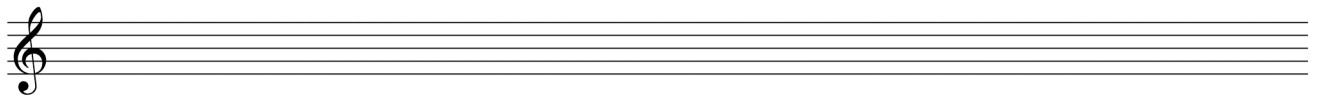
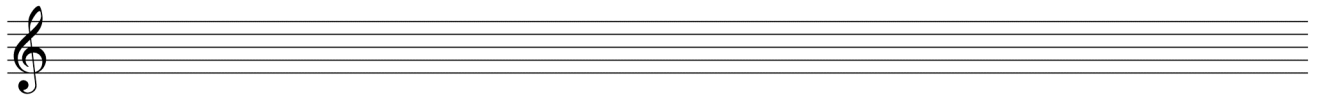
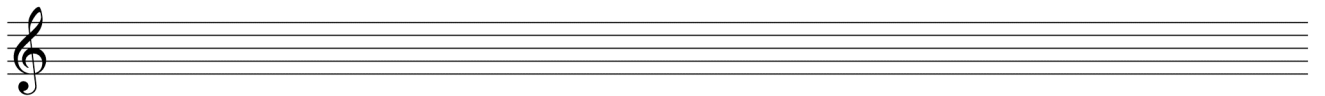
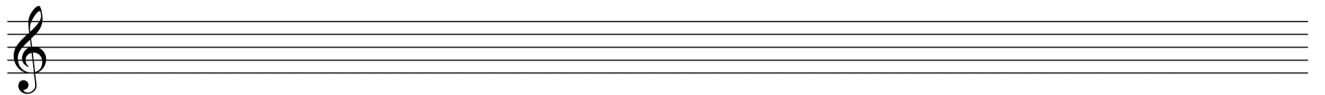
ってわけで Available Minor Scale を加えると、、、

	Major	Natural Minor	Harmonic Minor	Melodic Minor	Diatonic	Available Minor
<input type="checkbox"/> M7	I、IV	^b III、 ^b VI	^b VI		Ionian Lydian	
<input type="checkbox"/> m7	II、III、VI	I、IV、V	IV	II	Dorian Phrygian Aeolian	
<input type="checkbox"/> 7	V	^b VII	V	IV、V	Mixolydian	HMP5 Lydian ^b 7 Mixolydian ^b 6
<input type="checkbox"/> m7(b5)	VII	II	II	VI、VII	Locrian	Locrian#2 Altered
<input type="checkbox"/> mM7			I	I		Harmonic Minor Melodic Minor
<input type="checkbox"/> augM7			^b III	^b III		Lydian#5
<input type="checkbox"/> dim7			VII			

Available Minor Scale は Major Key ん時の借用コード⇒Tm, Sm, Dm ってな状況下で使うとーゼンはまる。

[問5]下記8小節程度の Chord Progression を創り、Key・Chord・Degree・Function 及び Scale Name と Scale note を書きなさい。

但し、Available Minor Scale も使用すること。



[問6]完成した上記 Scale note の内、Avoid note に印をつけ Tension を度数表記しなさい。